

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 11 月 8 日	
所属部局・職	アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程学生
氏名	横塚 彩

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
愛知県犬山市
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
ゲノム実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 10 月 27 日 ~ 平成 26 年 10 月 31 日 (5 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学霊長類研究所
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
ゲノム実習では、屋久島実習で採集したオオイタビのサンプルを用いて、どの動物がオオイタビを菜食していたのか明らかにすることができた。
【分析方法】
DNA 抽出作業を行った後、PCR につけ、DNA の増殖を確認し、シーケンスにつけた。 屋久島で採取したオオイタビの 24 サンプルを解析についた。 CoI を 13 サンプル、SCR を 11 サンプル解析した。 シーケンサーでつた結果をもとに、解析ソフト、ネット上の照合サイトで動物の特定をおこなつた。 ほとんどのサンプルから、ニホンザルの DNA を抽出することに成功した。またシカや昆虫など、サル以外の DNA も抽出することができた。人間の DNA が抽出されたのは 1 サンプルのみであった。
【ゲノム実習をとおして】
私は、ゲノムの「ゲ」の字も分からないような状態でゲノム実習を行ったが、一連の工程を今回学んで、フィールドで明らかにできることとラボワークで明らかにできること、二つを合わせることによって、新しい発見、新しい事実が見いだせることが実感できた。一度学んだからといって今後ゲノムの技術を自身の研究に生かしていくことができるかはまだ分からないが、ゲノム実習を行ったことで自身の知見は大きく広がつたように思う。
  
6. その他 (特記事項など)
全くゲノムが分からない私に丁寧に基礎からご指導くださいました今井先生、岸田先生に感謝いたします。ありがとうございました。